

へいせい ねんど はくつちようさ じょうもんじだい どき せっき どせいひん  
平成 12 年度の発掘調査では、縄文時代の土器や石器・土製品などが、

しゅうのうよう はこほどしゅつど  
収納用のコンテナで 35 箱程出土しました。

やく わり どき ちよぞうけつ ないぶ どき ひょう  
約 8 割の土器は貯蔵穴の内部から見つかり、これら土器の表  
めん ちょうり ねつ ようす  
面には調理などで使われ、火の熱を受けた様子もみられるために、使  
われて壊れたものを捨てた可能性がります。

また、出土した石器は全部で 333 点あり、やはり 8 割以上が貯蔵穴  
ない しゅつど せっき ぜんぶ わりいじょう ちよぞうけつ  
内から見つかりています。中でも、磨石・凹石が 232 点、石皿は 26  
ちょうり めだ どき  
点と調理で使われたものが多く目立っており、土器と同じく使われた  
す せきぞく せきそう どうぶつ  
後に捨てられたものとみられます。他に、石鏃・石槍といった動物の  
か せっき しゅつど  
狩りに使われる石器も数点出土しています。

さらに、土製品は、円盤状土製品が 6 点、土偶・斧状土製品・耳飾  
どせいひん えんばんじょうどせいひん どぐう おのじょうどせいひん みみかざ  
り・キノコ形土製品がそれぞれ 1 点ずつ出土しました。特に注目され  
どせいひん ねもとぶぶん うら せきしよくがんにょう  
るのはキノコ形土製品で、根元部分とカサの裏に赤色の顔料が付いて  
ないぶ ぜんたい そそ ぐちぶぶん せきしよく がん  
います。すぐそばからは、同じく内部の全体と注ぎ口部分に赤色の顔  
りょう とってつきちゅうこうどき  
料が付いている把手付注口土器が見

つかっていることから、これらは  
せきしよく がんりょう と  
赤色の顔料を溶かしてためていた  
ちゅうこうどき  
「うつわ（注口土器）」とその「ふ  
どせいひん  
た（キノコ形土製品）」として使わ  
かのうせい  
れた可能性がります。



土坑④ 注口土器とキノコ形土製品出土状況 (平成 12 年度調査)